

チブサン古墳（山鹿市）



説明板/6世紀前半築造の前方後円墳

チブサン古墳 Chibusan Ancient Tumulus

この地方に君臨した豪族の墓で6世紀前半の前方後円墳です。周濠、埴輪、石人がありました。(石人は現在東京国立博物館が所蔵しています。)古墳内部の石屋形内壁に赤、黒、白で描かれた鮮やかな壁画があるので全国的に有名です。この古墳は、国指定の史跡となっています。

This large keyhole-shaped tumulus was built in the early 6th century for a local powerful family. It has a surrounding moat, terracotta clay figures and stone figures. (The stone figures are now housed in the Tokyo National Museum.) Inside the tumulus are nationally famous, vivid mural paintings drawn in red, black and white. This tumulus is designated a national historical relic site of Japan.

"지부산" 고분

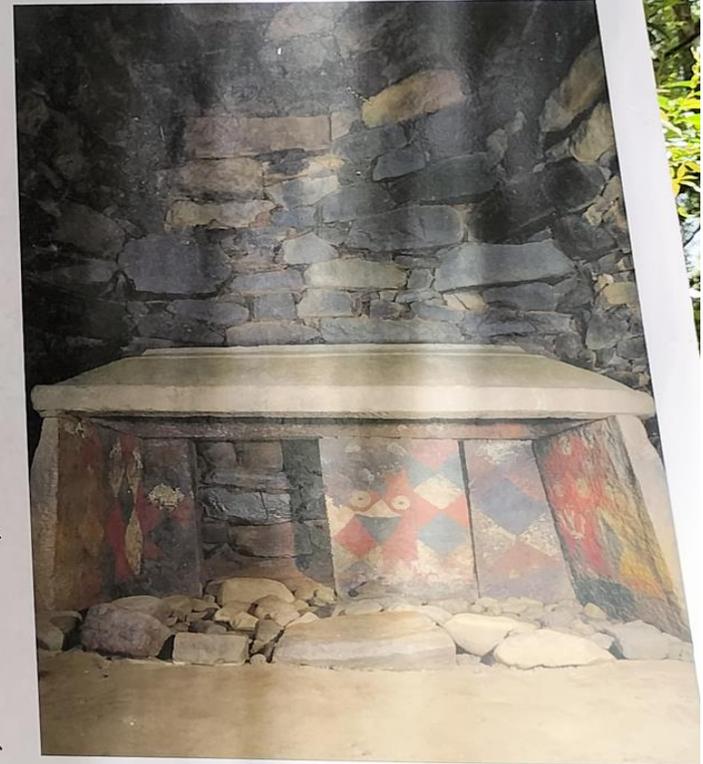
이 지방에 군림한 호족의 무덤이며 6 세기 전반의 전방후원분입니다. 주호, 토용, 돌사람이 있었습니다. (돌사람은 현재 "도쿄" 국립박물관이 소장하고 있습니다.) 고분 내부의 석옥형 내벽에 적, 흑, 백색으로 그려진 선명한 벽화가 전국적으로 유명합니다. 이 고분은 국가지정의 사적입니다.

神乳古墳

6世紀前半由稱霸當地的豪門權貴所建造的墓地。為前方後圓古墳。設有壕溝、陶俑、石人(石人現在收藏在東京國立博物館)。因古墳內部的石屋形內壁上有用紅、黑、白三色描繪的鮮艷壁畫而聞名全國。古墳也被列為國家級指定史蹟。

神乳古墳

6世紀前半由稱霸當地的豪門權貴所建造的墓地。為前方後圓古墳。設有壕溝、陶俑、石人(石人現在收藏在東京國立博物館)。因古墳內部的石屋形內壁上有用紅、黑、白三色描繪的鮮艷壁畫而聞名全國。古墳也被列為國家級指定史蹟。



チブサン古墳石室内部
熊本県立芸術古墳館提供

様々な説明板等が設置されている





出土遺物

チブサン古墳の石室は古くから開口しており、山鹿市教育委員会による石室保存工事の事須恵器、土師器、埴輪が出土し、山鹿市立博物館に保管されています。須恵器は甕などの破片ですが、土師器は完黒漆塗り、1点は丹塗りであり、墓前での祭平成4年度の周辺整備に伴う県教育委員会の発掘調査では、円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪形象埴輪が出土しました。埴輪は、本来は墳丘の上などに立て並べられるものですが、周溝の中に転落した状態で出土しました。下に展示しているのは、その複製品です。

り、石室からの遺物 引られていません。前調査で、石室の入口からくびれ部にかけて博物館に保管されています。形に近い小型の長頸壺が2点出土し、1点は祀に使用されたものと考えられます。



チブサン古墳出土土師器長頸壺

石 人

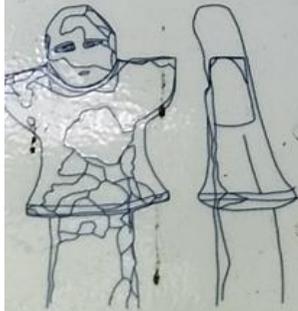
九州には、凝灰岩で人物、動物、器材等を造り、古墳に立て巡らしています。このような石製品を石人・石馬、あるいは石製表飾と呼んでいます。

石製品をもつ古墳は全国で28例ほどで、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県に27例を数えます。九州外では、鳥取県に1例があるにすぎません。そのうち、熊本県には15例ほどがあります。

チブサン古墳の石人は、もとはくびれ

部付近に立てられていたと伝えられますが、正確な位置は不明です。高さは約1.5m、最大幅は推定で80cmです。

ヤッコ^{だこ}尻形をした簡略化された表現です



が、胴には短甲^{たんこう}（よろい）を付けた武装石人^{せきじん}で、古墳を守るために立てられたと考えられます。現物は東京国立博物館に保管されています。

チブサン古墳石人実測図

肥後古代の森 山鹿地区案内図



チブサン古墳の前方部の近くに「西福寺第12号石棺」という記載がある

チブサン古墳 周辺整備平面図



チブサン古墳

チブサン古墳は、長軸をほぼ東西に向けた前方後円墳です。墳丘の周囲は、古くから道路や開墾等で削られており、元の形から少し変形しています。

周溝の確認調査の結果等からみると、本来の全長は55m以上と推定されます。斜面に築かれているため、やや不整形な平面形ではありますが、周囲には周溝が巡らされています。北側のくびれ部には造出しつくりだが確認されています。

埋葬施設は後円部にあり、南に入口のある複室の横穴式石室です。石室の全長は約6 m、前室は約1.9 m四方、後室は約3.6 m四方の正方形です。

側壁は、凝灰岩の割石がドーム状に積み上げられ、大きな一枚の天井石でふさがれています。このような、方形の平面形で、側壁がドーム状に積みあげられた石室は、熊本県を中心に分布しており、肥後型石室と呼ばれています。

後室の奥壁沿いに石屋形いしやかたがあり、この部分かに華麗れいな装飾文様そうしょくもんようがあります。

この石屋形は、熊本県、福岡県に多い
ものです。

装飾文様は、石屋形の左内壁に菱^{ひしがた}形
文と円文、右内壁に円文と人物、奥壁
に三角^{もん えんもん}文・円文・菱^{さんかくもん}形文、蓋の軒先の
部分に三角文・菱^{さんかくもん}形文が描かれていま
す。顔料は、赤・白・青の3色が使用
されています。

石屋形の奥壁右側にある同心円文を
乳^{ちぶさ}房にみたて、乳^{ちち}の神様として甘酒を
供える信仰が近年までみられました。
チブササンが転化してチブサンとなっ
たといわれています。





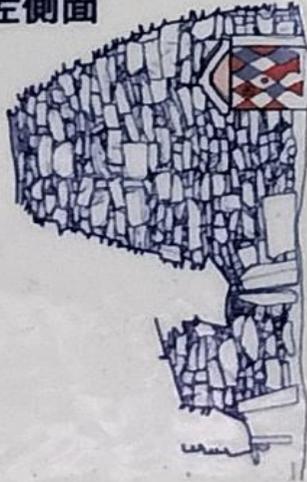
正面奥壁



後室断面



左側面



右側面



石屋形

後室

平面図

前室

羨道

前室断面



チブサン古墳石室実測図

石屋形のレプリカも置かれていた



アップで見たとろ/「 video」は熊本県立装飾古墳館で展示されているレプリカ

 video



後円部(右手前)から前方部(左奥)方向を見たところ/後円部に横穴式石室が開口している/右手に「国指定史跡 チブサン古墳」と刻まれた石碑がある

[video](#)





ここが横穴式石室の入口/施錠されている



前方部から後円部方向を見たところ

 video



少し退いて見たところ/周溝が巡っている

 video



反対側に回って、後円部から前方部方向を見たところ

 video



少し近寄って見たところ/括れ部の辺りに造出しがある



正面に戻って、周溝の様子を見たところ/右手前に説明板があった

[video](#)



西福寺第12号石棺

この石棺は、平成元年1月、チブサン・オブサン両古墳をつなぐ園路の造成中に発見されたものである。

棺身は、軟弱な凝灰岩製板石6枚を使用した、長さが193cm（内径171）、横幅が西側で65.5cm（内径48）の箱式石棺である。

石棺は、長軸方向をN-73°-Wにして埋納まいのうされていたが、盗掘を受けており遺物、副葬ふくそう品の出土はない。大きな古墳の周囲から石棺群が発見される事例は多く、ここでも過去に2基ほどの石棺の出土が知られる。

この石棺の埋納時期は、チブサン古墳築造（6C前半）以降、間もない頃のことであろう。

これが西福寺第12号石棺



これは山鹿市立博物館に展示されていたチブサン古墳出土の遺物





チブサン古墳
全景

400) (中 期) (500
401 413 438 478 503
人物像の
三年説もある
和歌山県
人物像の
三年説もある
人物像の
三年説もある

チブサン古墳出土

石川山4号墳出土
（東北文化博物館蔵）
石川山古墳群は古墳時代中期一帯に属する。12
号で構成されている。石川山4号墳（1980）に
属する。出土品は、土器、鉄器、銅器、石器、
など。この出土品は、古墳時代の文化を
よく示している。特に、土器の形や装飾は、
古墳時代の文化をよく示している。

